

特集

全力!! 自己改革Vol.2

TACが行く!

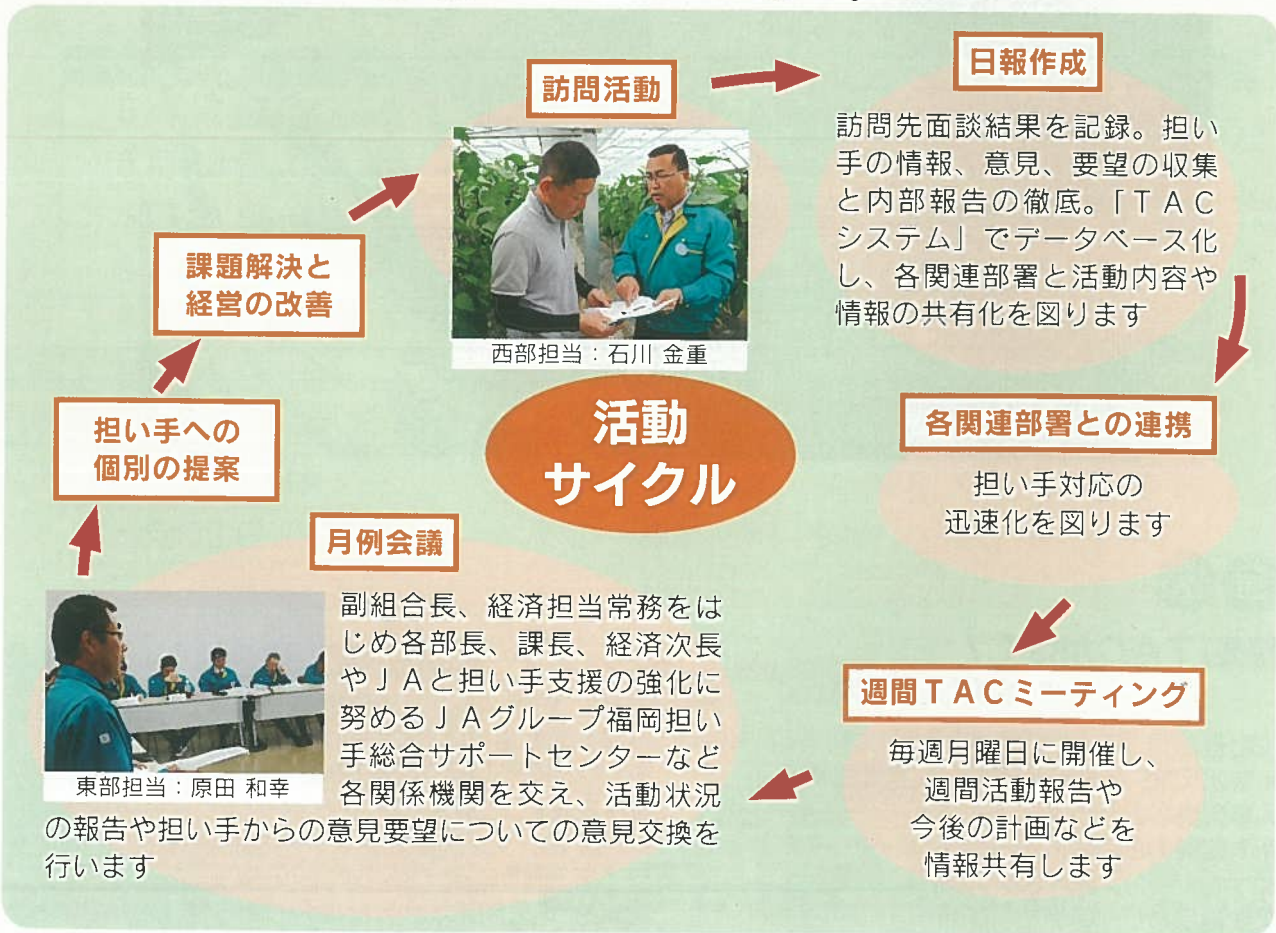
～担い手に出向き課題解決、満足度向上へ

TAC（地域農業の担い手に出向く担当者）が当JAに設置され約一年。TACが担い手に日々出向き、営農や農業経営に関する相談といった様々な声を聞き取る窓口となり、各関連部署と連携、情報共有し担い手への個別の提案や課題解決に努めています。今回は、担い手の頼れる存在であるTACの活動に迫ります。

TACの目的は？

TACとは、Team for Agricultural Coordinationの頭文字を取ったもの。JAが一体（チーム）となって地域農業をコーディネートする。担い手への情報提供や個別の課題解決に努め、担い手の満足度向上を実現し、担い手の経営安定と所得を増大するとともに、JAの業務改善、事業改革に反映させることが目的。担い手から聞き取った意見、要望をもとに、各関連部署と情報共有、連携により課題解決や事業改善への提案に努めており、TAC活動を通じて、自己改革の基本目標である農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域活性化への貢献を図る

平成30年度は東部、中部、西部地区ごとに担当を3人配置。
2100件の訪問活動を行い、担い手の満足度向上を目指します



平成 29 年度の活動事例

平成29年4月～平成30年2月までに訪問した中での活動実績の一部を紹介します

1 「博多万能ねぎ」調整作業の求人募集

「博多万能ねぎ」生産者から労働力不足による調整作業の求人依頼の要請。東部野菜課、広報担当部署の食農普及課と共にアルバイトの急募の案内をJAのホームページや広報誌「ふあーむ」平成29年7月号、同30年3月号に掲載した



2 作付拡大に向けた支援事業の活用

生産者からタマネギの作付拡大の要望。福岡担い手総合サポートセンターとTAC担い手支援事業を活用し、作付拡大を図った



3 イチゴ「あまおう」の過熟果対策に向けた営農指導

イチゴ生産者から、イチゴ「あまおう」の過熟果対策として営農指導の要請。野菜課と連携し、営農指導員による栽培指導を実施。規格外のイチゴは販売開発課を通じて加工用として出荷



4 農地復旧に向けた人的支援の要請

豪雨で被災した生産者からの農地復旧に向けた人的支援の要請。JA 筑前あさくら災害対策本部に依頼し、JA職員による人的支援を実施(8月の5日間、計43人)



訪問活動

4月10日、梨生産者の井上常人部会長に話しを伺いました

■訪問活動で良かったことは？

思いを伝える窓口ができたことです。以前、労働力不足の悩みを相談した際、農業ヘルパーを紹介してもらいました。早速、昨年12月からヘルパーを雇用しています。これからも、TACからは多くの情報を提供してもらい、良い情報があればまた利用したいです。要望に対して聞くだけではなく、その後の結果まで報告してもらうことで、伝えて良かったなと思います。

中部担当 早野司洋係長

何回も足を運ぶことで、担い手との信頼関係を築き上げ、担い手一人一人の課題解決に努めていきます